

# 外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/02

## 米雇用統計に注目

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ドル/円</a>	➔	ドル先安観が浮上	2-4
		予想レンジ: 80.20 ~ 82.80 円	
<a href="#">カナダ/円</a>	➔	引き続きドル/円の動向に注目	5-6
		予想レンジ: 84.50 ~ 87.20 円	
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## USD/JPY

## ドル/円 4/25～29の主な推移

※4時間足



4/25 Monday	序盤、ゴトー(5・10)日によるドル需要の思惑に加え、日経平均株価が上昇し、クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)にて円売りが強まると、ドル/円は82.43円まで上昇した(①)。しかし、上海総合株価指数が下げ幅を拡大し、クロス円が下落すると、ドル/円も連れ安となった。その後は82.00円を挟んでもみ合いとなったが、NY市場引けにかけて米国債利回り低下を背景にドル/円は81.67円まで値を下げた。
4/26 Tuesday	東京市場からNY株式市場中盤にかけて81円台後半でもみ合いに終始した。しかし、26時に行われた米2年債入札が好調だったことなどを背景に米国債利回りが低下すると、ドル/円の下げが加速し、引けにかけて81.48円まで値を下げた(②)。
4/27 Wednesday	朝方に対ユーロなどに対してドル売りが強まる中、ドル/円でも81.26円までドル安が進行した。しかし、その後はすぐに反発。格付け会社S&Pが日本の格付け見通しを引き下げたことを受けて円安が進行。さらに、欧州市場序盤にポンド/円が急騰すると、ドル/円は連れ高となり82円台乗せを達成した。その後もロンドン16時(日本時間24時)のフィキシング(値決め)に絡んだ円売り・ドル買いの思惑などを背景にドル/円は上昇し、25時30分の米連邦公開市場委員会(FOMC)声明発表前後には82.78円の高値をつけた(③)。しかし、この声明や、27時15分から開催された米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見では「基調インフレは抑制されている」「第1四半期GDPは比較的弱いと予想」「行動の前には2～3回の会合があるだろう」などと発言したことなどをを受けて米国の超低金利政策の長期化観測が広がり、ドル/円は下落に転じた。
4/28 Thursday	前日からのドル売りの流れを引き継ぎ、朝から対ユーロ等でドル安が進むと、ドル/円も下落。欧州市場序盤には81.48円まで値を下げた。21時半に発表された米新規失業保険申請件数は42.9万件と予想(39.5万件)より増加し、米第1四半期国内総生産(GDP)は前期比年率+1.8%と予想(+2.0%)を下回る結果となった。これを受けドル/円は一時81.40円まで下落した(④)。
4/29 Friday	22時45分発表の米4月シカゴ購買部協会景気指数は67.6と予想(68.2)を下回り、また22時55分発表の米4月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値も69.8と予想(70.0)を下回る結果となり、ドル/円の上値を押さえた。加えて月末のロンドン16時(日本時間24時)のフィキシング(値決め)に絡んだドル売り・円買いが出た事も重なり、ドル/円はその後81.09円まで下落した。市場では相次ぐ予想を下回る米経済指標を背景に、米国の景気減速を背景に金融緩和策が長期化するとの見方からドル売りが強まると、ドル/円は一時81.02円まで下落した(⑤)。

## USD / JPY

## 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

## 下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

## 今週の見通し

今週の米国は重要経済指標が多く発表される。最も重要視されるのは6日発表の4月雇用統計で、同様に雇用関連指標(4日:4月ADP全国雇用者数、5日:新規失業保険申請件数)も注目される他、4月ISM景況指数(2日:製造業、4日:非製造業)も手掛かり材料になってくるだろう。

足元の為替市場を見ると、3月下旬から4月下旬にかけて注目されていたテーマであった「米国の量的緩和からの出口戦略の開始時期」は先月27日の米連邦公開市場委員会(FOMC)声明とその後の米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見を経て、「超低金利政策の長期化」という見方で落ち着いた格好だ。これにより当面はFRBが量的緩和第2弾(QE2)終了後も緩和的な金融政策を継続するとの見方が強まっている。当面はドル先安観が根強い中、米国の経済指標結果を見ながら、米国経済の強さを1つ1つ確認していく展開になるだろう。基本的に、予想より悪い結果ならドル売り材料につながりやすいと見られる一方、予想よりも良好な指標結果が出たとしても、米金融緩和の長期化観測が後退しない限り、ドル買いの動きは限られる可能性もある。

また最近のドル/円の値動きを見ると、良好な経済指標結果を背景に一旦ドル高が進んだものの、その結果を受けた株高の影響による欧州・オセアニア通貨に対するドル売りが強まると、それに連れてドル安が進む場面もしばしば出てきている。今週のドル/円はユーロ/ドルや豪ドル/米ドルなど、ドル/スイスなど他の通貨ペアでのドル売りの動きにも注意を払う必要があるようだ。(川畑)

(予想レンジ:80.20~82.80円)

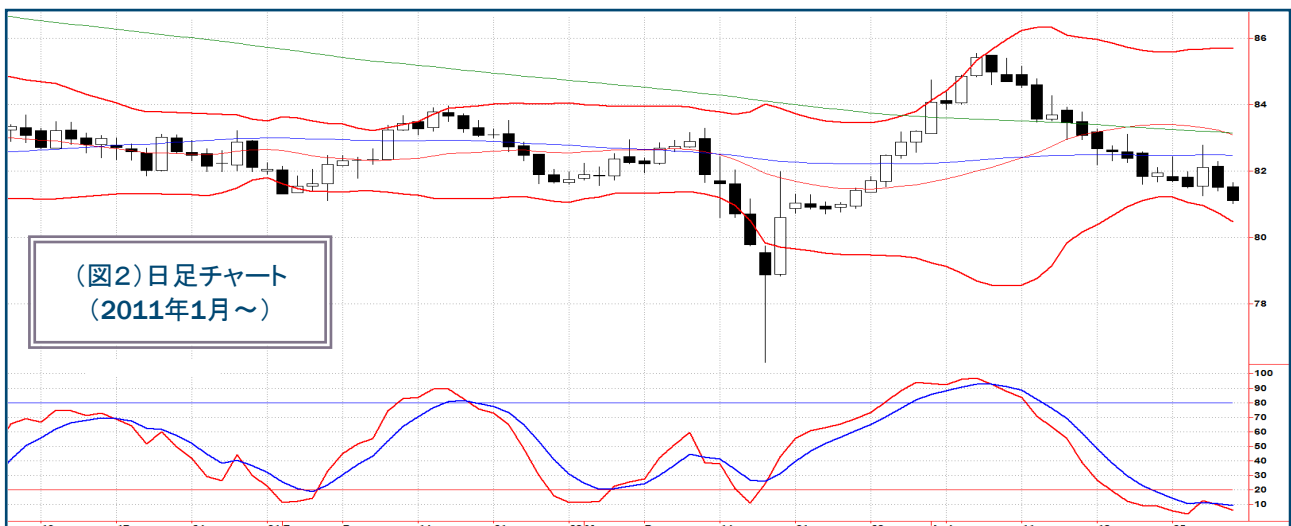
# USD/JPY

## テクニカル分析

●ドル/円 4/29週足引値:81.10円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値82.78円～安値81.02円と値幅1円76銭となった。先週は81円台後半で取引が始まったが、戻り高値の82円台後半から着実にドル売りが出て下落する、という展開でとなった。週末の引値81.10円は、20日線(83.08円、4/29)、200日線(83.14、4/29)、60日線(82.46円、4/29)、40日線(82.38円、4/29)をすべて下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(4/29時点)は上限が85.68円、下限が80.46円であり、バンドの上限は上昇、下限は下落、とバンド幅は拡大しており、下落がトレンドとなる可能性を匂わせている。

週足チャート(図1):先週は3週連続で陰線となった。4/4週で一旦は、2007年7月の123.63円からの上値抵抗線(ラインC:当時:85.64円)に近づき、反転下落した格好だ。今週、この線は84.86円にある。日足チャート(図2):先週は81円台前半から82.78円まで上昇後、再度81円台前半に下落。「下落の動きからそろそろ反転上昇に転じてもいいのでは」との思いを裏切って下落しているが、ドル/円の売り方が「ちょっとやそっと反転したくらいでドル/円の売りを止める」参加者ではないからこそ、このようにダラダラの下落になっているのだと思う。本来的に相場が反転上昇するエネルギーを消耗し切っているの、買いから入るのは感じが悪い。目先は「下落がどこまで継続するか」を考える相場になってきていると見る。ここから80.60-70円のビッグポイントを試していく展開で、連休中は介入(日銀の単独であっても)が入りにくいと思わせる。79.00~82.00円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。



# CAD/JPY

## カナダ/円 4/25～29の主な推移



<b>4/25</b> Monday	資源価格の上昇や、日経平均が堅調に寄り付いた事に加え、5・10日のドル需要の思惑から仲値公示に向けてドル/円が上昇した事もあって、カナダ/円は86.41円まで上昇した。しかし、NY時間に入り米国株が下落し、一時2008年9月以来の水準に上昇していた原油価格が下落に転じると、カナダ/円も85.52円まで下落した。(①)
<b>4/26</b> Tuesday	前日の海外株安を受けた日経平均の軟調推移や、原油価格の下落を背景にカナダ/円は85.36円の安値を付けたが、その後NYダウ平均株価が、米企業の好決算を受けて100ドル超の上昇となると、カナダ/円は86.24まで反発した。(②)
<b>4/27</b> Wednesday	格付け会社S & Pが日本の格付け見通しの引き下げを発表した事による円売りを受けてカナダ/円も上昇した。さらに米連邦公開市場委員会を数時間後に控えて、これまで売られていたドルを買い戻す動きが活発化するとドル/円が82.78円まで上昇し、これにつれてカナダ/円も続伸し86.60円の高値を付けた。(③)
<b>4/28</b> Thursday	米第1四半期国内総生産(GDP)が前期比年率+1.8%と事前予想の+2.0%を下回り、米新規失業保険申請件数が42.9万件と事前予想の39.5万件を上回った。米国経済の成長鈍化や雇用市場の停滞が示された事でドル売りが強まると、ドル/円が下落。カナダ/円もこれにつれて85.57円まで下落した。(④)
<b>4/29</b> Friday	加2月GDPが前月比-0.2%と予想(±0.0%)を下回ったことを受けてカナダドル売りが優勢となった。さらにその後、米4月シカゴ購買部協会景気指数や米4月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値がいずれも予想を下回りドル/円が下落した事につれてカナダ/円は85.24円の安値を付けた。(⑤)

### 上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり  
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

### 下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## CAD/JPY

## 今週の見通し

先週のカナダ/円相場は85.24円～86.60円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約0.1%の小幅な下落(カナダドル安・円高)となった。米ドル/カナダドル相場が2007年11月以来の安値水準にまで米ドル安・カナダドル高が進んだ一方で、ドル/円相場がドル安・円高方向に振れた事から、カナダ/円は上値を抑えられた。今週も、6日には市場が最も注目する米4月雇用統計の発表が予定されており、引き続きドルを中心とした相場展開が予想されるため、クロス円には方向感が出にくいだろう。世界的な株高や国際商品価格の上昇に大きな変化がない限り、米ドル安・カナダドル高の傾向が続く公算が高く、カナダ/円も底堅く推移すると見られる。ただ、ドル/円相場が一段と下落するようだと、カナダ/円にも下落圧力が掛かる可能性がある。(神田)

(予想レンジ: 84.50～87.20円)

## テクニカル分析



●カナダ/円 4/29週足引値: 85.78円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/4/29安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は60日線(84.78円、4/29)や200日線(82.81円、4/29)よりも上値に位置しているが、20日線(86.77円、4/29)を下回って来ている。ボリンジャーバンドは4/29現在、上限89.03～下限84.52円であり、バンド幅は縮小傾向である。

4/08に直近高値の89.49円を見てから調整的な下落となっている。先週は20日線に上値を抑えられ、反発上伸力の乏しい1週間となった。目先は83～87円のレンジが先行するが、60日線を割り込んで下落が加速する気配を感じさせる。

上値ポイントは①87.14円(4/21高値)、②89.49円(4/08高値)であり、下値ポイントは①84.78円(60日線、4/29段階)、②82.81円(200日線、4/29段階)である。(岡田)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (5/2~5)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/2			<b>ロンドン、香港、南ア休場(メイデー)</b>		
(月)	10:30		(豪)第1四半期住宅価格指数[前期比]	0.7%	-0.5%
	16:15		(スイス)3月実質小売売上高[前年比]	1.5%	--
	16:30		(スイス)4月SVME購買部協会景気指数	59.3	59.8
	23:00	◎	(米)4月ISM製造業景況指数	61.2	59.6
			(米)3月建設支出[前月比]	-1.4%	0.3%
5/3			<b>東京休場(憲法記念日)</b>		
(火)	13:30	○	(豪)RBAキャシュターゲツト	4.75%	4.75%
	17:30	○	(英)4月PMI製造業	57.1	57
	18:00		(ユーロ圏)3月生産者物価指数[前年比]	6.6%	6.5%
	18:30		(南ア)第1四半期失業率	24.0%	--
	23:00		(米)3月製造業受注指数[前月比]	-0.1%	1.5%
5/4			<b>東京休場(みどりの日)</b>		
(水)	07:45		(NZ)3月住宅建設許可[前月比]	-9.7%	--
	17:30	○	(英)4月PMI建設業	56.4	55.4
	17:30		(英)3月消費者信用残高	+8億GBP	+5億GBP
	17:30		(英)3月マネーサプライM4・速報[前年比]	-1.5%	--
	18:00	○	(ユーロ圏)3月小売売上高[前月比]	-0.1%	0.1%
		○	(ユーロ圏)3月小売売上高[前年比]	0.1%	0.2%
	21:15	◎	(米)4月ADP全国雇用者数	+20.1万人	+20.0万人
	23:00	◎	(米)4月ISM非製造業景況指数	57.3	58
5/5			<b>東京休場(こどもの日)</b>		
(木)	07:45	◎	(NZ)第1四半期失業率	6.8%	6.7%
	10:30	○	(豪)3月小売売上高[前月比]	0.5%	--
	10:30		(豪)3月住宅建設許可件数[前月比]	-7.4%	--
	17:30	○	(英)4月PMIサービス業	57.1	55.8
	19:00		(独)3月製造業受注[前月比]	2.4%	--
	20:00	◎	(英)BOE政策金利発表	0.5%	--
	20:45	◎	(ユーロ圏)欧州中銀金融政策発表	1.3%	--
	21:30	○	(米)4/30までの週の新規失業保険申請件数	--	--
	21:30		(米)第1四半期非農業部門労働生産性[前期比]	2.6%	1.0%
	21:30		(米)第1四半期単位労働費用[前期比]	-0.6%	0.8%
	21:30		(加)3月住宅建設許可[前月比]	9.9%	--
	23:00	○	(加)4月Ivey購買部協会指数	73.2	--

## 経済指標カレンダー (5/6)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/6	08:50		(日)4月マネタリーベース[前年比]	16.9%	--
(金)	14:45		(スイス)4月失業率	3.4%	3.3%
	17:30	○	(英)4月生産者物価指数[コア:前年比]	3.0%	3.0%
	19:00		(独)3月鉱工業生産[前月比]	1.6%	--
	20:00	◎	(加)4月失業率	7.7%	7.7%
	20:00	◎	(加)4月雇用ネット変化	-0.15万人	+1.50万人
	21:30	◎	(米)4月非農業部門雇用者数	+21.6万人	+18.0万人
	21:30	◎	(米)4月失業率	8.8%	8.8%
	28:00		(米)3月消費者信用残高	+76.17億USD	+50.00億USD

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com